



「全日本模擬国連」に高校1年生のチームが参加しました。今年は過去最多となる136校(203チーム)の応募があり、一次審査(書類選考)を通過した80チームが本大会に出場しました。出場した2名に大会についての報告をしてもらいます。

模擬国連で得たもの

甲斐 亮吾

模擬国連とは、参加者が各国の大使になり、社会問題に関して実際の国連と同じように話し合い、それぞれの国の権益を踏まえながら交渉し、決議案をまとめていくというものである。会議では各国のスピーチと立ち歩きの自由な話し合いが交互に行われる。その過程で審査員から、他国の大使と上手く交渉していた、グループ(模擬国連では主張の似たような国同士でかたまっただけのグループを作り、話すことも多い)の中で中心的役割を担っていた、などの基準から評価される。今回僕らが参加した全日本模擬国連大会では最優秀賞と優秀賞があり、それらを獲得するとニューヨークで行われる世界大会に進むことが出来る。

これまで1年ほど模擬国連の活動に参加してきた。海城の中で行われているものや他校との合同練習会などに。模擬国連を通して社会問題に対して深く知ることができる、意見の食い違う相手と交渉によって妥協点を探すなどといった力をつけることができると思う。そのような面がある一方で、僕自身は模擬国連に対して疑問を感じていた。模擬国連で活躍できるようなタイプは良い意味で他人を気にせずどんどん進んでいけるような強引さを持っているタイプであると思う。審査員などに評価されるのもそのような強引さが多い。また、会議中にまわってくるスピーチの上手さであったりと細々としたテクニク的な要素もまた大きい。それゆえ、和をもって貴しとなすような日本文化の中で育ってきた僕には向いていないのかもしれないと思っていたし、細々としたテクニク的な部分が重視されることは物事の本質的な部分ではないのかもしれないとも思っていた。

しかし何故かやってみようとは思っていたこともあり、模擬国連には積極的に参加していた。そして今年の夏、全日本大会に出るための選考課題(『異文化理解』という課題図書を読み、文章をいくつか書く)に取り組んだ。9月上旬に提出し、10月には一次試験通過の知らせがきた。そこでようやく出るという実感が湧いた。と同時に本番までに残された時間でできる限りの事前準備をしなくてはならないと思うと身が引き締まった。事前準備は具体的には担当する国の状況を調べ、本番で他国の大使に提案する政策の内容を考えることをする。

今回の議題は移住・移民に関してで、我々はフィリピンの担当だった。日本語の文章はもちろんだが、場合によってはフィリピン政府が出しているような英語の文章も読まなくてはならない。模擬国連に参加するペアは少なくとも2人のうち1人が帰国子女であることが多い中で、僕たちのペアはどちらも日本育ちだったこともあり、英語の文章を読むことは骨の折れる作業だった。そして先生や過去に模擬国連に参加した海城の先輩方に助けてもらいながら、今までの練習会とは比べ物にならないくらい時間をかけて事前準備をした。

そして迎えた模擬国連当日。僕は周りのことは何も気にせず、思い切りやっついこうと思って

いた。事前にしつこく練った柱となるような政策を提案した。フィリピンの現状を踏まえて女性移民に関する政策の充実、ということである。他の国の大使もそれには賛成してくれ、彼らに上手く説明して納得させることも出来たと思うし、最終的な決議案に盛り込むことも出来た。特に交渉が難航したということもなく、順調に終わった。会議は2日間かけて行われ、今まで経験したことのないほど体力的にも精神的にも消耗したが、それだけ集中して熱中して取り組めたということなのではないかと思う。

今回模擬国連というものを経験出来たのは、非常に貴重であったと思うし、良い経験になった。それまでは模擬国連というものに苦手意識を感じ、楽しいと思うことはなかった。しかし、事前準備を丹念に行って、ある程度自分たちの主張を盛り込み、他国の大使の意見も取り入れながら決議案を作っていくことの出来た全日本模擬国連は楽しかった。苦手意識というのは案外大した敵ではないのかもしれない。

選考課題を始めた夏頃から多くの方のお世話になった。先生方や先輩、OB、グローバル部員、同級生、そしてペアの鈴木天馬氏。この場を借りて御礼申し上げたい。ありがとうございました。



全日本模擬国連大会への出場

鈴木 天馬

生徒が英語を操り各国大使を演じて国際会議をシミュレーションする模擬国際連合というものの存在を、中学生の時に初めて知り興味を持った。昨年の秋に、全日本高校模擬国連大会に出場することになった先輩の声かけで海城にグローバル同好会ができ、その初期メンバーとして参加したことで、自分自身にとって模擬国連の大会への出場がより具体的な目標となった。

グローバル同好会での練習では、全日本高校模擬国連大会で実際に取り上げられた議題(例えば児童労働など)を扱って模擬国連のシミュレーションを行ったり、ディベートを行っていた。また時には、他校で開催された模擬国連の練習会にも出場し、他国の生徒との交流大会にも参加した。

全日本高校模擬国連大会の出場は9月までに提出する書類審査によって決定された。書類審査では、英語課題と日本語課題がある。英語課題では、今回の会議の議題である「移民」に関連して、自分と「異文化」の関わりについて述べる400語程度の英作文が課され、ペアの二人が別々に執筆した。日本語課題としては、課題図書である青木保の『異文化理解』という本の一部を500字程度に要約する課題と異文化交流を進めるために行うべき政策について述べる1200字程度の課題があった。日本語課題は、ペアの二人で一つの書類を執筆した。これらの課題は先生方にもアドバイスをいただきながら修正を重ねて作成したので、提出日の前日まで執筆を続けることになった。

書類選考の結果発表がなされた10月から、本大会が開催される11月半ばまでは1ヶ月半ほどしかなく、担当国がフィリピンと発表されてから、ペアと毎日スカイプをしたり、朝早くに学校で会ったりして準備に明け暮れる毎日だった。大会の出場者には、新たに自国の情勢分析のための書類課題が課された。これと並行して、大会に使うスピーチ原稿、自分たちの国のスタンスを他国の大使に伝えるための書類などを書かなければならず、選考課題の数倍の分量の

書類を書く必要があった。自分たちだけでは40か国ある参加国の情勢の分析まで手を回すことができなかつたため、グローバル同好会の有志に情報収集を手伝ってもらった。さらに、先生方に添削をしてもらったり、模擬国連出場経験のある現東大生で海城 OB の先輩からも出場の心構えなどを教えていただいた。また、模擬国連の大会では英語により議事進行が行われ、加えて英語の文書その場で作成しなければならない。私達のチームは二人とも帰国子女でなかつたため、果たして立ちうちできるのか不安だった。そこで、youtube で模擬国連の英語の動画を見たり、想定される数種類の英語文書を用意するなどできる限りの準備をした。

大会は11月14日(土)、15日(日)の2日間に、青山にある国連大学で行われた。本番では、40組80人が二つの会場に集まり、各国の代表となって「移民」に関する模擬会議を行った。このうち、最優秀賞・優秀賞を獲得したチームは来春のニューヨークで開催される世界大会に出場することができる。私達は、担当国のフィリピンが数多くの女性移民を送り出していることから、女性移民の保護について強く訴えた。

実際に模擬国連の大会に出場して一番実感したことは、自分自身の交渉スキルの未熟さである。確かに校内練習会は複数回実施したが、全国大会では世界大会に出場経験のある学校の代表も集まっていて、正直なところ、文書作成力や交渉力等で圧倒的な差異を見せつけられた。2日間にわたる会議では、他国の意見を聞きながら、リーダーシップを発揮しつつ自国の利益にも合致するように合意形成し、英語でその文章をまとめていく必要があった。しかし、自分たちの意図していた方向に会議を持っていくことは至難の業であった。また、普段の練習会は男子のみだが、今回の大会では、私達と主張が共通していた国が集まってできた20名程度のグループには、私達を除いてすべて女子であり、女子に囲まれての交渉は、非常に新鮮な経験だった。入賞には遠く及ばなかつたが、今回の大会は自分自身の課題を見つめ直す良い機会となった。

最後に、この大会の準備にあたってはパートナーでいつも私の無理・難題に付き合ってくれた甲斐君、社会科や英語科の先生方、現東大生で海城 OB の方々、両親など様々な方からアドバイスをいただいた。この場を借りて皆様にお礼を申し上げます。さらに、グローバル同好会の活動があったからこそ、模擬国連への出場への動機を高めることができ、一緒に活動しているメンバーにも感謝申し上げます。

大会期間中、会議の様子を見学したり、「模擬国連」に関するガイダンスを受けることもできます。本校からは20名近くの中高生が見学をしました。また、引率教員も開催中に研究会を開き、「高校生模擬国連」の意義について勉強する機会があります。「模擬国連」に興味のある諸君は是非グローバル同好会に参加して下さい。

本年度の大会の結果は以下のようでした。

■最優秀賞：桐蔭学園中等教育学校 B チーム(会議 A、スーダン大使)、灘高等学校 B チーム(会議 B、ロシア大使)

■優秀賞：麻布高等学校(会議 B、カナダ大使)、関西創価高等学校 A チーム(会議 B、ポルトガル大使)、神戸女学院高等学部(会議 A、アルゼンチン大使)、渋谷教育学園渋谷高等学校 A チーム(会議 A、スウェーデン大使)

■ベストポジションペーパー賞：愛知県立旭丘高等学校 A チーム(会議 A、アンゴラ大使)、東京女学館高等学校 A チーム(会議 B、オーストラリア大使)

【参加チーム】

AICJ 高等学校、愛知県立旭丘高等学校 A チーム、愛知県立明和高等学校、浅野高等学校 A チーム、朝日塾中等教育学校 A チーム、麻布高等学校、市川高等学校、鷗友学園女子高等学校 A チーム、大阪星光学院高等学校 B チーム、大谷中高等学校 A チーム、大谷中高等学校 B チーム、岡山龍谷高等学校 A チーム、岡山龍谷高等学校 B チーム、お茶の水女子大学附属高等学校 A チーム、お茶の水女子大学附属高等学校 B チーム、海城高等学校 B チーム、開成高等学校、海陽学園海陽中等教育学校 A チーム、海陽学園海陽中等教育学校 B チーム、鹿児島県立甲南高校 A チーム、学校法人山崎学園富士見高等学校 A チーム、学校法人山崎学園富士見高等学校 B チーム、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 B チーム、関西創価高等学校 A チーム、関西創価高等学校 B チーム、関西学院千里国際高等部 A チーム、関西学院千里国際高等部 B チーム、岐阜県立岐阜高等学校 A チーム、岐阜県立岐阜高等学校 B チーム、京都外大西高等学校 A チーム、京都府立嵯峨野高等学校 B チーム、久留米大学附設高等学校、神戸女学院高等学部、神戸大学附属中等教育学校 A チーム、神戸野田高等学校 B チーム、札幌日本大学高等学校 A チーム、四天王寺高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校 A チーム、渋谷教育学園渋谷高等学校 B チーム、渋谷教育学園幕張高校 A チーム、修道高等学校、昭和女子大学附属昭和高等学校 B チーム、清教学園高等学校、成蹊高等学校、聖光学院高等学校、高田高等学校、高水高等学校 A チーム、高水高等学校 B チーム、千葉県立千葉高等学校、千葉県立成田国際高等学校、桐蔭学園高等学校 B チーム、桐蔭学園中等教育学校 A チーム、桐蔭学園中等教育学校 B チーム、東京女学館高等学校 A チーム、東京都立小石川中等教育学校、東京農業大学第一高等学校 B チーム、桐光学園高等学校 B チーム、東大寺学園中学校・高等学校 B チーム、桐朋高等学校、東洋英和女学院高等部 A チーム、東洋英和女学院高等部 B チーム、名古屋高等学校、名古屋国際高等学校 A チーム、名古屋国際高等学校 B チーム、灘高等学校 A チーム、灘高等学校 B チーム、南山高等学校女子部 A チーム、南山高等学校女子部 B チーム、新潟明訓高等学校 A チーム、新潟明訓高等学校 B チーム、西大和学園高等学校 B チーム、広島県立広島高等学校、福山市立福山高等学校、不二聖心女子学院高等学校 A チーム、松本秀峰中等教育学校、立命館高等学校 B チーム、六甲高等学校、和歌山県立田辺高等学校 A チーム、早稲田大学高等学院、早稲田大学本庄高等学院 A チーム
(以上 80 チーム・五十音順)

留学・学外の海外研修希望者へ！

ここ数年、本校の生徒も10人以上が留学をするようになりました。ほとんどの生徒が1年の留学ですが、本校の「留学制度」では9ヶ月以内の短期留学も認められています。生徒手帳に記載してある「留学制度」を是非見て下さい。

留学や夏季などに開催される学外の海外研修に参加を希望する場合、入念な準備が必要となります。業者の選定、国の選定、時期や期間、・・・、そして奨学金や留学中の海城の学費など、クリヤーしなければならない問題がたくさんあります。是非グローバル教育部にご相談下さい。

3 学期、ビル先生の英語講座

1、2 学期に引き続き3 学期も講座を開講します。新たに参加を希望する場合(学年は問いません)は、今学期中にグローバル教育部に申し出て下さい。継続の場合はその必要はありません。